

し尿と業界

います。しかし、特殊型には、試験装置の名目で認定を与える行政庁もあり、性能上、問題があった浄化槽も多々あったようです。

日本は戦後、国策として水洗化を進めてきました。下水道の敷設に膨大な国費を投じ、大都市から中小都市、そして町村へと普及を推し進めてきましたが、水洗化という意味では、浄化槽が果たした役割を見逃すことはできません。

昭和 55 年ごろまでは、下水道と淨

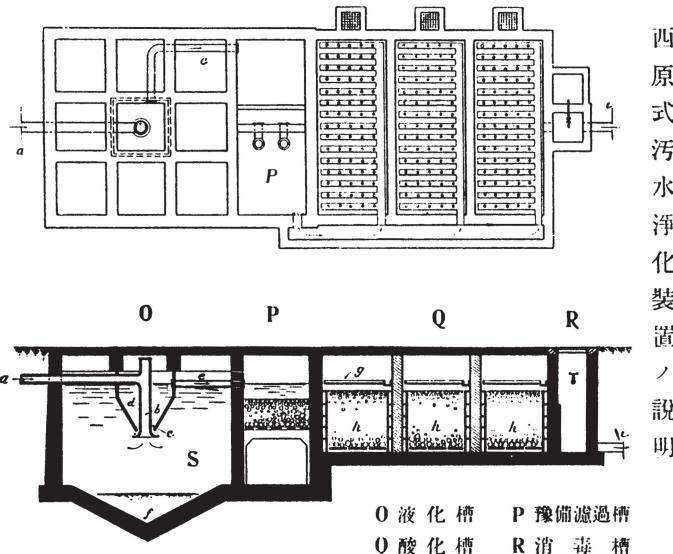
化槽による水洗化人口はほぼ拮抗していましたからも、その果たして来た役割の大きさが理解できます。片や、5 力年計画等で兆の予算を毎年度消化し、一方は、税金を使わず民需主導で国民の水洗化の要望に応えていたのです。

昭和 40 年代、FRP 製浄化槽が急速に普及

さて今日、浄化槽と言えば「FRP 製」を頭に浮かべますが、初めて FRP 製の浄化槽が開発されたのは昭和 37 年のことです。そして、それまでのコンクリート製に代わり、量産可能な FRP 製で、工事費も安く場所も取らない「ばっ気型浄化槽」が開発・製品化され、40 年代に入ると経済の高度成長、生活水準の向上と相まって国民の水洗化志向も高まり、多くの FRP 製浄化槽が設置、普及して行ったのです。昭和 40 年の設置基数は 40 万基でしたが、10 年後の 50 年には 220 万基*と 5 倍強の大幅な伸びを示しています（次頁表参照）。

清掃業者にとっては、汲み取りの減少が予測される中で、浄化槽の維持管理が新たな業務へと浮上しました。

*当時は無届や汲取りで届け出て浄化槽が設置されることもありました。このため実際の設置基数は公的な統計と差があり、メーカーの出荷基数から推計する方法が一般的でした。



出典：西原衛生工業所「西原式汚水浄化装置」（昭和 13 年）

【昭和 34 ~ 40 年／年度別設置基数】

- | | |
|-----------|-----------|
| ・ 昭和 34 年 | 103,982 基 |
| ・ " 35 年 | 128,698 基 |
| ・ " 36 年 | 162,941 基 |
| ・ " 37 年 | 198,854 基 |
| ・ " 38 年 | 244,976 基 |
| ・ " 39 年 | 298,181 基 |
| ・ " 40 年 | 350,150 基 |